様式３－２

令和5年1月27日

令和4年度　結果の分析及び今後の改善策

（ 中間 ・ 最終 ）

両城中学校区　校番　20　学校名　港町小学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（今年度）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★	貫 主体的な学びの推進による学力の定着と向上	基礎・基本の徹底	・国語科・算数科市販テスト「知識・技能」平均点は，86%であった。国語科では，漢字のミニテストや聞き取りテストを実施することで，正答率が上がったと考える。また，算数科では，確かめ算などで答えの見直しをさせることで，正答率が上がったと考える。 ・課題として，国語科では，漢字の「とめ・はね・はらい」や送り仮名など正確に書き取りができない児童がいる。また，算数科では，前単元の学習が定着しないまま新しい学習に入り，理解が難しくなっている児童がおり，問題文を丁寧に把握させる必要がある。	・引き続き，漢字テストを定期的に実施したり，既習の漢字を使わせたりすることで，漢字の定着を図る。また，「とめ・はね・はらい」を意識して書くことができるように指導する。 ・算数科では，問題文や式と対応させた図や表のかき方を丁寧に指導することで，問題把握しやすくする。 ・授業時間のはじめや終わりのスキルタイムでは，タブレットドリルを効果的に活用したり，計算問題に取り組ませたりして継続的に基礎的な知識・技能を身に付けられるようにする。
		思考力・判断力・表現力の向上	・国語科・算数科市販テスト「思考力・判断力・表現力」平均点は，81%であった。ペアトークのさせ方など研究授業を通しての学びを，それぞれの学級の授業で活かすことができた。また，発問を工夫することで，根拠を挙げて説明する児童が増えた。 ・振り返りでは，「この学習は生活のどの場面で使えるか」を書かせることで生活と関連させ，学習の必要性を感じさせることができた。しかし，児童によっては，振り返りを書くことに苦手意識をもっている児童がいる。	・引き続き，ペアトークやグループトークを取り入れ，伝え合う活動を通して，児童の聞く力や根拠を挙げて表現する力を高める。 ・全ての教科で振り返りを継続して行い，良い例などを紹介するなどして，自分の学びを調整できる振り返りができるようにする。また，国語科の「書くこと」の指導では，書くことが苦手な児童がいることを意識してスモールステップで書く力が高められるようにする。
★★	貫 自他を大切にし共に高まり合う児童の育成	自他のよさに気付き協働する児童の育成	・2学期末に実施した児童アンケートによると，87%以上の児童が「自分には良いところがある」と肯定的に捉えられていた。 ・児童朝会や児童集会で，縦割り班で仲良く遊んだり，協力したりすることで，掃除時間以外でも児童同士のつながりをつくることができた。 ・ほめほめ葉っぱを書いた枚数分自分にももらえるように改善したことで，自他の良さを認め合える雰囲気ができ，自己肯定感を高めることができた。	・縦割り掃除や縦割り集会などを継続して行い，縦割り班活動を充実させる中で，一人一人が活躍する場を設定し，良さや伸びを教師が評価したり，児童が相互評価したりする。 ・「ほめほめ葉っぱ」の活動を引き続き行う中で，振り返りをする場面を設定し，お互いの良さを認め合えるようにする。
		目標をもってやりぬく児童の育成	・「生活目標を守る」の割合が94%，「進んで挨拶をする」の割合が82%であった。 ・生活目標を朝の会で確認し，帰りの会で振り返ることで児童が意識して取り組むことができた。 ・縦割り班活動や学習発表会などの行事ごとに，それぞれの学年に応じた目標をもたせることで，目標に向かって努力する姿が見られた。	・児童朝会で，各委員会が各月の生活目標を知らせ，全校に意識付けることを引き続き行う。また，その結果を委員会が取りまとめ，掲示するなどして，成果を認め合える場を設ける。 ・目標設定の場面で，より具体的に達成できたときのイメージをもたせながら目標を設定するように声かけをする。
★	社会で生き抜くための体力と生活習慣の向上	貫 体力の向上	・体育科授業において，「みなとまち体操」の取り組みを行ったことで，柔軟性を高めることができた。児童が主体的に体の動かし方を意識することにより，柔軟性を高めることができたと考える。 ・保健・体育委員会が中心となって行った外遊びキャンペーンや，くれチャレンジマッチに週一回取り組むことで，外遊びをする児童が増えた。 ・生活リズムぱっちり週間では，毎日早寝早起きができたと回答する児童が55%で，1学期よりも増えているが，取組を継続する必要がある。	・引き続き，体育科の授業で「みなとまち体操」を実施する。 ・学級によっては，外遊びができていない児童がいるため，担任が声かけをするとともに委員会の外遊びキャンペーンを継続して行う。 ・生活リズムぱっちり週間の結果をもとに，保健便りなどで啓発を図る。
		貫 防災教育の充実	・災害についての児童アンケートで「起こりやすい災害や避難場所について理解している」と回答した児童の割合は，92%であった。しかし，自分が住む地域に起こりやすい災害について理解できていない児童が数名いた。 ・避難訓練において，事前・事後の指導を丁寧に行うことができた。また，防災教育の手引きを参考にして防災に関する授業を行う事ができた。しかし，まだ放送を静かに聞くことが徹底できていない。	・起こりやすい災害については，土砂災害携帯マニュアルを使用し，引き続き家庭と連携し，地域で起こりやすい災害について指導をする。 ・教職員が放送をする場合は，始めに静かに止まって聞くことができているか確認をするなどして，放送の聞き方を徹底させる。

業務改善	・教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保	・業務改善に関する教職員へのアンケートの「児童と向き合う時間が確保できている」の肯定的評価は90%であった。成績処理をする期間，成績処理をする時間を全体で設定することで，時間の確保がしやすくなった。また，研修や暮会を同じ日に行うようにし，放課後に児童と向き合う時間をとりやすくした。 ・学習発表会や二川ロードレース大会など行事後の午後の時間に児童と向き合う時間を確保した。 ・児童へのチラシ配布や会議の資料配付の際，グーグルクラスルームを活用し，電子化を図ったことは時間削減の効果があった。	・業務内容や学校としての取組について，学校教育目標や経営理念に基づいてより精選を行うことで，職員の業務に関する意識を向上させる。 ・他校の業務削減を参考にしてさらに働き方改革を進める。 ・効果があった取組を踏襲し，在校時間外勤務45時間未満の教職員の割合を100%にする。
		長時間勤務の削減		